

## 環境省が企画・参加するサイドイベント一覧

## ＜会場内のイベント＞

日時	イベントタイトル	イベントの概要	部屋	予定参加者数	通訳
10月18日 13:15～	REDD メカニズムと生物多様性保全との相互作用	どうすれば生物多様性保全の概念を REDD(森林減少・劣化からの温室効果ガス排出削減)に組み込むことができるかについて議論します。 また、REDD+として特に熱帯での原生林の保護のため、現在の主要な問題について議論します。	Room 233B	60	×
10月18日 13:15～	生物多様性条約の施行におけるラムサール条約の役割	日本のラムサール条約湿地保全の取組について紹介するとともに、生物多様性条約の施行におけるラムサール条約の役割について議論します。	Room 235A	80	×
10月19日 13:15～	SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ(IPSI)発足式典	SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップの発足を発表し、あわせて、目標や目的、運営方法や活動について締約国会議参加者や関係者に対して紹介します。	白鳥ホール	300	○
10月19日 13:15～	持続可能な経済社会活動に関する事例発表会～生物多様性と循環型社会～	里山の生物多様性を保全しながら、地域において循環型社会を形成し、地域コミュニティの再生・活性化を図る取組等、自然共生社会と循環型社会の統合に向けた取組、アジアでの3Rの取組に関する報告を行います。	Room 211B	100	○ 予定
10月20日 13:15～	ポスト2010年目標の達成に向けて	「国連生物多様性の10年」の議論を含むポスト2010年目標の実現を促進するための「マルチステークホルダー」によるプレゼンテーションとディスカッション	白鳥ホール	200	×
10月20日 13:15～	食べて考える、外来種ワークショップ I	参加者にはブラックバスバーガーを食べてもらいながら、我が国が積極的に取り組んでいる外来種対策(外来生物法の制定とその運用や、ジャワマングースやグリーンアノールなどの根絶に向けた計画的な防除)について、プレゼンテーションします。	Room 232	100	×
10月20日 16:30～	サンゴ礁(国際サンゴ礁イニシアティブ(ICRI))	多様な生物を育み、人にも様々な恩恵を与えるサンゴ礁と関連生態系について、現状、課題、国際的取組を報告します。(国際サンゴ礁イニシアティブ(ICRI)事務局と環境省による開催)	Room 234A	85	×

日時	イベントタイトル	イベントの概要	部屋	予定参加者数	通訳
10月21日 13:15～	国際里海ワークショップ ー豊かな生物多様性の 保全に向けた里海の役 割ー	「里海」とは、適切に人手を加えることにより生物多様性と生物生産性が高くなった海域です。身近な海を未来にわたり豊かな海として残していくため、「里海づくり」を提案しています。この「里海」の概念や「里海づくり」の意義について紹介します。	Room 211B	100	×
10月21日 18:15～	食べて考える、外来種 ワークショップⅡ	参加者にブラックバスパーガールを食べてもらいながら、我が国が積極的に取り組んでいる外来種対策(多様な主体によるオオクチバス(ブラックバス)防除、産業との調和の例としてのセイウオオマルハナバチ、非意図的導入との戦い)についてプレゼンテーションします。	Room 232	100	×
10月22日 13:15～	生態系と生物多様性に 関する経済学(TEEB): 地方行政向けとビジネ ス向けについて	10月20日のTEEB最終報告書の公表を受け、地方行政向け(D2)とビジネス向け(D3)の内容や日本の事例等の紹介を行うとともに、これらを踏まえた今後の生物多様性の保全等の方向性について議論します。(日本語ー英語の同時通訳を行う予定)	白鳥ホール	300	○ 予定
10月22日 13:15～	東・東南アジア生物多 様性情報イニシアティ ブ(ESABII)	ESABIIの目的、ESABIIで実施する保全に必要な生物多様性情報の整備及び分類学の能力構築について紹介します。	Room 212A	100	×
10月23日 9:00～	オーシャンズ・デイ・アッ ト・ナゴヤ	海洋の生物多様性に関して、政府、国際機関、NGO、学界、産業界等からの代表者による発表と議論を行い、海洋・沿岸域の生物多様性の重要性を訴えるとともに、将来の取組の方向性を示す宣言をとりまとめます。	白鳥ホール	300	○
10月25日 18:15～	アジア太平洋生物多様 性観測ネットワーク (AP-BON)	生物多様性保全のための科学的基盤の強化を目的とし、アジア太平洋地域において生物多様性に関するデータを収集、統合化、提供するAP-BONを紹介します。	Room 130	100	×

## <会場外のイベント>

日時	イベントタイトル	イベントの概要	部屋	予定参加者数	通訳
10月21日 13:15～	東アジア・オーストラリア地域の渡り鳥飛来ルートにおける生物多様性保全の取組	国内外の専門家が渡り鳥とその生息地の保全を目的とした東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップの取組について紹介します。	日本政府 屋外大型 テント	100	○
10月23日 13:15～	見て、聞いて、考えよう！外来種ワークショップ	第一部:「つれてこられたマングース(仮称)」の上演 沖縄に放たれた数頭のマングースのものがたりを紙芝居にした外来種問題の普及啓発目的に作成した紙芝居を上演します。 第二部:「外来種なんでもきいてみよう！」 外来種を研究している専門家の先生に、「不思議に思っていたこと、知りたいこと、何でも聞いてみよう。」のコンセプトとした会場参加者からの先生方への質問コーナーを設けます。	日本政府 屋外大型 テント	150	日本語
10月25日 13:15～	クリティカル・エコシステム・パートナーシップ基金(CEPF)の役割:2010年目標への貢献	生物多様性の保全と市民社会の参画を促進する革新的パートナーシップとしての CEPF が、2010年目標に係る取組に果たしてきた役割と、今後の可能性について議論します。	名古屋 学院大学 体育館	200	○
10月26日 13:15～	国際生物多様性年・地球生きもの委員会報告会 ～「国連生物多様性の10年」に向けて～	経済界、学識経験者、関係機関等、多様な主体から成る国際生物多様性年国内委員会「地球生きもの委員会」の活動紹介、及び同委員会委員が「国連生物多様性の10年」に向けて語るパネルディスカッション。	名古屋 学院大学 体育館	200	○
10月27日 13:15～	生物多様性国際ユース会議 in 愛知 2010 の成果発表	8月21日～27日に開催された生物多様性国際ユース会議 in 愛知 2010 の成果発表。 会議参加者により、会議中に作成した声明と行動計画を自分たちの未来のために提案します。	日本政府 屋外大型 テント	100	○
10月27日 13:15～	生物多様性の評価・指標(生物多様性総合評価)	日本について行われた生物多様性総合評価について紹介するプレゼンテーションを行うとともに、生物多様性の評価とその指標についてのディスカッションを行います。	名古屋 学院大学 体育館	200	○